

ある日の育児日記から

(57)

佐藤 和代



圭と有のいとこたちが三人、三日間泊まりがけで遊びにきました。去年、茨城にログハウスを建てて移り住んだ一家ですが、「村で農業の一斉散布があるんだって。危いから、子どもだけ預かってくれない？」と頼まれたのです。田舎暮らしはうらやましいけれど、こんなこともあるのですね。さて、急に五人の子持ちと化した我が家。圭も有もあまり騒がしいほうでないけど、これだけ子どもがいると興奮状態で、騒々しいこと！でも、いつも少食な圭がたくさん食べるし、家の中で遊ぶことが好きな有がどんどん外へ出るし、こ

れぞ子どもらしい生活、という感がありました。大家族で育つと、たくましい子になりそうね。子どもたくさんいいな。...とはいえ親は大変。家でもプールでも公園でも、「全員そろったー？ 行くぞー！ 食べるぞー！ 片づけてっ！」と、号令ばかりかけていた気がします。三日もすると声が枯れてゼーゼー。失業中ゆえに三日間つきあわされた敬は疲れはて、「昔の大家族の家長が絶対的権力を握っていたわけがわかったぞー。あれはきつと、号令一下全員が従うようにしておかないと、自分が身がもたなかったんだ。生活の知恵だ。」うーん、この新説、一理あるようなないような。



「10を頭に5人の子が...」の図